



部活動について ⑤

では、続きを書きます。

『遠い空で きっと』は、1998年にリリースされた「MOTHER EARTH」という大黒摩季さんの7枚目のオリジナルアルバムの中に収録されている曲です。

1999年の8月に、第21回全国中学校ソフトボール大会が金沢市営専光寺ソフトボール場で開催されました。私は、その大会の開催地実行委員長として大会運営に携わりました。前年の9月から1年間、事務局勤務となり学校から離れて、その仕事に専念していました。

閉会式の前日のリハーサルで、選手退場のための曲がしっくりこなくて、音楽担当の先生に私は、曲の再選考をお願いしました。その先生は、その夜、徹夜で曲選びをして下さり、準決勝が始まる2時間前に、「この曲を使いたい」と言って、大黒摩季さんすら知らない私に、この曲を聴かせてくれました。

そして、決勝戦終了後の閉会式で、女子優勝 千厩中学校(岩手県)と男子優勝 鏡中学校(高知県)を含めた4校が、この曲が流れる中でグラウンドを行進しました。

閉会式後に、副委員長と握手して大泣きをしたことを今でも思い出します。

閉会式で挨拶をして下さった日本中体連の黒木専務理事から「素晴らしい閉会式でした」と言われたときも、炎天下で泣きました。

あのときの大会スローガンは、

「精一杯に輝いて 最高の笑顔 ここ石川で！」 でした。

全国から集まってきた精銳の中で、日本一に輝いた中学生。

そして、その学校の先生方や保護者の方々。

だけではありませんでした。4日間の大会運営に関わった全ての人たちが、輝いていたと思います。

競技者として、頂点をめざして頑張り抜くこと。

それだけが、スポーツの価値ではないことを、私は、このときに、本当に、体感しました。

いろんな競技会で、裏方で頑張っておられる方々の姿を見る目が変わりました。

恥ずかしながら、あの年になるまで、競技者としての視点しか持てていなかった私でした。

遠い空で きっと

大黒摩季



一個の人間

武者小路実篤

自分は一個の人間でありたい。

誰にも利用されない

誰にも頭をさげない

一個の人間でありたい。

他人を利用したり

他人をいびつにしたりしない

そのかはり自分もいびつにされない

一個の人間でありたい。

自分の最も深い泉から

最も新鮮な

生命の泉をくみどる

誰もが見て

ここでこそ人間だと思ふ

一個の人間でありたい。

一個の人間は

一個の人間でいいのではないか。

一個の人間

それが実に美しいことだ。

だが他人を利用して

得をしようとするものは、

いかに醜いか。

それは実に美しいことだ。

だが他人を利用して

得をしようとするものは、

いかに醜いか。

その醜さを本当に知るものが

一個の人間。